

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年 <small>検証</small>	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
育てたい力	思いや意図をもって表現する力								
重点指導目標	好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表す。	表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし計画を立てるなどして表す。	形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表す。	資質・能力を定着させ、作品を通し、思いや意図をまわりに伝える力を育む。	資質や能力を更に深め、柔軟に活用して創造活動の能力をより豊かに高める。				
思いや意図	<p style="text-align: center;">造形あそびは創造活動の基礎に</p> <p style="text-align: center;">自分で目的を見つけて発展させる活動</p> <p>＜造形あそび＞ 手や体を動かして楽しむ中で、うかんできたことを描く。</p> <p>偶然できた模様や形・色合いから、豊かに発想する。</p> <p>素材のよさを生かし、豊かに発想する。</p> <p>材料や表現の美しさを考え、用途や目的をもって発想し、表し方を構想する。</p> <p>自分の好きなイメージから発想し描く。(本能的に湧き出るものをテーマにする。) 自分を中心にした、身近な生活体験を通して発想構想ができる。</p> <p>表したいことを考えてから、表現の計画を立てる。</p> <p>意図や主題からイメージを深め、発想する。</p> <p>構成や美しさを考えて、色や形を考える。今までの生活経験や学習を生かし、発想を探り、深められる。</p> <p>絵画表現 感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を表し創造的な構成を工夫し心豊かに構想する。</p> <p>デザイン表現 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせ、伝えたい内容を分かりやすく用途や機能・他者への思いやりを考えて表現の構想をする。</p> <p>深く感じ取ったこと、思いや感情などの心の世界などを基に主題を表し、想像力を働かせ、表現方法と材料の組み合わせなどを考え創造的な構成を工夫し心豊かに構想する。</p> <p>目的や条件などを基に美的感覚を多角的・総合的に働かせ、伝えたい内容をより多くの人に分かりやすく、使う側の用途や機能を考え、造形的な美しさを総合的に考えて表現の構想をする。</p>								
	<p style="text-align: center;">自分を中心とした表現 友達や他者との関わりの中で表現 言語活動と結びついた表現 知的な活動としての表現 社会との関わりの中での自己表現 総合的な表現</p>								
表現する力	<p>(用具・技法などを自分のイメージに応じて使いこなす力)</p> <p>パスでぬり込み、ぼかしの技法など体験する。</p> <p>パスと絵の具を組み合わせる。</p> <p>筆や指で絵の具をぬる。</p> <p>混ぜ色遊びをする。</p> <p>スタンプ・フロタージュ・紙版画の技法表現を使った活動をする。</p> <p>彫刻刀を使った木版画を体験する。ステンシルなどの技法表現を体験する。</p> <p>彫り進め版画・ステンシルなどの技法表現を体験する。</p> <p>今まで使った素材の特徴をつかみ表現を深める。様々な描画材など。(墨・ペンキ)</p> <p>色彩の特性や感情を理解し、表現するための基礎となる能力を身につける。作者の心情や創造的な表現の工夫を感じ取る。</p> <p>模様や遠近法などの表現方法を体験し、表し方を工夫する。</p> <p>ローラーや自分の筆をつくるなど、ねらいをもった偶然性をつくり、作品づくりに生かす。</p> <p>既習事項を生かし意図に応じた材料や用具の生かし方を創意工夫する。</p> <p>自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的な表現をする。</p> <p>材料や用具の特性などから見通しをもった技能</p> <p>材料や用具、表現方法の特性などの総合的な見通しをもった技能</p>								
	鑑賞活動 密接に関連をもたせながら学習活動を進めて行く								
言語活動支援活動の視点	<p>感じたことを話したり、友人の話などを聞いたりする。</p> <p>感じたことや思ったことを話したり、友人の作品を参考にしたり、話し合い活動をししたりする。</p> <p>感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして表現の意図や特徴などを言葉にする。</p> <p>言語活動を通して見る視点を整理し、美しさの要素を明確化する。お互いの意見を共有化できるように話し合ったり、発表したりする。それらを通して他者との議論・交流をしていく力を付ける。</p> <p style="text-align: right;">アイディア・スケッチ、マインドマップなどの活用</p>								
主な題材	「好きなものいっぱい」 「うんどうかいのえ」 「うんどうかいのえ」 「てでさわってかくのもきもち」 「がくげいかいのえ」 「うつつてあそぼう」 「のぞいてみると…」	「うんどうかいのえ」 「見てみておはなし」 「ふしぎなたまご」 「うつつてうつつて」 「せんからはじめて」	「絵の具と水のハーモニー」 「とらまいの絵」 「の力をもつ顔」 「動物集まれ」 「キラキラステンドグラス」 「シルエットの町」	「ベタベタティッシュ」 「魔法の力をもつ時計」 「彫ると出てくる不思議な花」 「絵の具で遊んで」 「不思議な魚・鳥・木」 「宇宙に咲く花」 「ポスターを描こう」	「でこぼこ広場に絵の具が走る」 「風神雷神」 「ローラーの達人」 「七頭舞刀」 「私の靴」 「宇宙から落ちてきた種」 「彫りすずめ版画」 「広げようユメ・夢・ゆめ」	「運動会の靴」 「かさねて かさねて」 「楽器づくり」 「春の色による平面構成」 「アート・パロディ」 「ピカソの部屋へようこそ」 「将来の私(自画像)」	「ひまわり(ゴッホ)から」 「野菜のデッサン」 (絵画) 「木彫ネームプレートのデザイン」 「ユニークレタリング」 (デザイン)	「靴のデッサン」 (絵画) 「立体的な平面構成」 「焼き物のデザイン」 「逆さまの絵」 「ウッドシートの時計のデザイン」 (デザイン)	「日本美術史」(鑑賞) 「日本の見方と西洋の見方」(鑑賞) 「銅板レリーフのデザイン」 「写真ファイルのデザイン」 「木彫りがき箱のデザイン」 (デザイン)

音楽

指導内容系統統一表〔音楽〕(思いや意図を持って表現する力)

～歌唱活動を通して～

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年			
育てたい力	思いや意図を持って表現する力											
重点指導目標	歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いを持って歌う。		歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。		歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。拍の流れによって明るい声で歌う。音の重なりを感じる。		速度や強弱の変化を生かして多彩な表現を工夫する。曲の構成と音の重なり方を理解して表現を工夫する。					
思いや意図を持って表現する力	<p>曲の感じを言葉で表したり体で模倣できたりする。</p> <p>友だちと表現を言葉や体で伝えあうことができる。</p> <p>★自分の考えや感じたことを大切にできる。</p>		<p>曲の感じを文章や絵で表現したり、体の動きを伴った活動で表現したりできる。</p> <p>★友だちの感じ取った内容を見たり、聴いたりして、よさを見つける。</p> <p>★自分の明確な考えや願いをもてる。</p>		<p>楽曲から感じた心の中のさまざまな思いや考えを表現したり伝えたりできる。</p> <p>★友だちの意見を聞き、思いをふくらませる。</p> <p>★自分の明確な考えや願いをもてる。</p>		<p>歌詞の内容や曲想を感じ取ることができる。声部の役割や全体の響きを感じ取ることができる。その曲の背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けることができる。</p> <p>★歌詞の内容や曲想を味わい、理解できる。声部の役割や全体の響きを理解できる。その曲の背景となる文化・歴史や他の芸術を理解できる。</p>					
	<p>自分の歌声や発音に気をつけて歌える。</p> <p>★音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素を歌唱活動に用いて表現方法を知る。</p> <p>★反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを知り音楽の流れを感じて歌える。</p>		<p>呼吸や発音のしかたに気をつけて、自然で無理のない歌声で歌える。</p> <p>★音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素を歌唱活動に用いて表現方法をつかめる。</p> <p>★反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを知り音楽の流れをつかんで歌える。</p>		<p>呼吸や発音のしかたを工夫して、豊かな響きのある自然で無理のない歌声で歌える。</p> <p>★音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素を歌唱活動に用いて表現方法を活用できる。</p> <p>★反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを理解し音楽の流れをつかんで歌える。</p>		<p>★明るい発音を習慣付ける。声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合唱することができる。変声期に気をつけながら、パートを選ぶことができる。</p> <p>★その曲に合った発音や言葉の特性を理解して歌える。</p> <p>★音色、リズム、旋律、和声を含む音と音のかかり合い、形式などの動きを理解し、表現を工夫できる。フレーズを生かした歌い方を工夫できる。</p> <p>★表現したいイメージをもち、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら表現できる。</p>					
身近な音符、休符、記号や音楽に関わる用語について、音楽活動を通して理解して歌える。												
自分にとって満足のいく表現ができる。												
支援活動の視点 教師の指導	<p>体を使って思いや意図を表現</p> <p>曲に合わせて歩く、「びよんびよん」「くんくん」など動きや音を表す言葉を見つけて歌に身振りを付ける活動をするなどの支援活動をする。</p>		<p>歌うことで思いや意図を表現</p> <p>歌詞の内容に関心をもたせ、曲のイメージをふくらませる。それにふさわしい声で歌うことや曲の山と気持ちの盛り上がりの一致を意識させるなどの指導をする。</p>		<p>表現の工夫の多様化</p> <p>曲が作られた背景など作者の思いにも関心をもたせ、さらに曲のイメージをふくらませる。曲にふさわしい発音を意識させるとともに、旋律の重なり、リズム、強弱、拍の流れなどたくさんの音楽を特徴付けている要素は作者の思いや意図と密接であることに気付かせる。さらに、自分の思いやクラスの思いを重ね合わせることで感動に結び付く表現に深まっていくような支援活動をする。</p>							
主な題材	うたでなかよしくなるうた おとのたかさにきをつけてうた たがいのおとをきこう おんがくをたのしもう	うたでともだちのわをひるげよう 音のたかさに気をつけてうた おんがくをたのしもう	いろいろな音色をかんじとろう せんりつのとくちょうをかんじとろう 音の重なりをかんじとろう 音楽を楽しもう	いろいろな音色をかんじとろう せんりつのとくちょうをかんじとろう 音の重なりを感じ取ろう 音楽を楽しもう	いろいろなひびきを味わおう 和音の美しさを味わおう 曲想を味わおう 音楽の楽しさを味わおう	いろいろなひびきを味わおう 和音の美しさを味わおう 曲想を味わおう 音楽の楽しさを味わおう	心を伝え合う歌い方を求めて 旋律のまとまりの構成 ハーモニーの美しさ・楽しさ 混声合唱へのステップ 物語を歌で表現する芸術	<p>曲種に応じた歌い方の工夫</p> <p>日本の心、イタリアの心を表す歌の味わい</p> <p>声部の重なり方の理解と表現の工夫</p> <p>言葉を大切に歌唱表現の工夫</p> <p>速度や強弱の変化を生かした表現の工夫</p> <p>混声合唱へのステップ</p>				

鑑賞を伴う活動に★を記している。
共通事項に関する項目は□で示している。

育てたい力

思いや意図をもって表現する力

1 連携のねらい

図画工作・美術・音楽における小中を通して、共通して育てたい力として、本テーマを設定した。これは児童・生徒の表現活動における根幹となるもので、新学習指導要領でも重要視されている力である。9年間で計画的に、繰り返し指導し、スパイラルに学習を積み重ねることで、図画工作・美術・音楽における、表現活動の基礎となり、豊かな表現活動が可能となる大切な力であると考え、系統立てて育てることにした。また、この育成を通して、それぞれの教科を愛好する児童・生徒が育成するためにも有効であると考えた。

2 具体的な手だて

(1) 図画工作・美術

表現活動には様々あるが、今回は比較的、児童・生徒が親しみやすく、小中を通して共通して実践されている平面表現にしばって研究を進めた。実際の具体的な手だてに当たっては、学習指導要領を基に児童・生徒の発達の段階を小学校1・2年生、小学校3・4年生、小学校5・6年生、中学校1年生、中学校2・3年生の5つに分けて指導を行った。指導の視点として「思いや意図」、そこから「表現する力」の2つの手だてから迫った。さらに、「思いや意図」では発想するための能力の育成を2つの育てたい力を分けて考え、今回の小学校学習指導で明記された「造形あそび」の指導に注目して手だてとした。しかし、「造形あそび」は、中学では指導内容からなくなることから中学校段階では、創造活動の全ての基礎になる力に結び付くものとし、<造形あそび>を意識した発想や素材へのアプローチが必要であることが分かった。「思いや意図」のもう一つの系統として、自分のイメージを造形的な表現へと結び付ける活動に注目して手だてとした。この手だては、中学校段階では造形活動の中心になる資質・能力として育成することが必要であることが分かった。一方、「表現する力」では、「思いや意図」を受けて成長の段階ごとに自分のイメージを具体的に高めるため、どのような用具や技法を使いこなしながら平面表現に結び付けるかの具体的な手だてを探った。

(2) 音楽

音楽では、指導で大きく分けると歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞と分けられる。その中で最も3校共が常に指導を行っている歌唱活動にしばり研究を進めた。「思いや意図」に関しては、児童・生徒それぞれの楽曲に対する思いをもち、さらに成長段階に合わせて「こう表現したい」という思いを具体的にもたせられる児童や生徒に育てられるよう系統立てた。さらに「表現力」では「思いや意図」を受けて、主に発声の仕方を身に付け、音楽を特徴付けている要素について学習しながら技能面で表現する力を具体的に探った。

3 言語活動の充実に向けて

(1) 図画工作・美術

思いや意図をもって表現するためには、児童・生徒の感じたことを一層重視し、明確にし、

これらを引き出すための一つ的手段として言語活動を取り上げた。これは、児童に言語力を付けさせるために行うのではなく、今回のテーマを達成するために有効な手だてとして考えた。また、教師側が児童・生徒を見とり、評価する際に有効な手だてとなると考えた。5つに分けた学年ごとの言語指導として、低学年では、身近な材料や体験などを言葉化する中で思いや意図を深める。中学年では、人との関わりや話し合いをする中で、思いや意図の広がりをもつ。高学年・中学1年では、言語活動を用い、自己の内面を見直し、思いや意図を探る。中学2・3年においては、社会との関わりの中の自己表現の広がりを言語化し、イメージを深めるとした。これらの段階を踏んで指導を行うことで、心に感じたことを言葉で思考させ、表現活動のきっかけとし、知性と結び付けさせる。このことが将来に渡って児童・生徒の創造性をはぐくむ一つ的手段になると考えた。

(2) 音楽

音楽においては、思いや意図をもって表現することは非常に大切な活動である。より楽しく、美しい音楽表現ができる児童や生徒に育てていくには、それぞれの児童や生徒が楽曲に対して自分の思いを明確にすることが必要である。またその思いを相手に伝え合うことでより音楽表現を深めていくことができる。そこで、言語活動を取り入れた授業を小中で共通して重要視した。低学年では、曲に合わせて足踏みをしたり模倣したりする活動や鑑賞の活動を通して感じたことを簡単な言葉で表す。中学年では、歌詞の内容に関心をもったり曲のイメージをふくらませたりする。また、感じたことを、学習カードなどを使用し文章で表したり発表したりする。高学年・中学1年では、曲が作られた背景や作曲者の思いなどにふれつつ、曲に対する思いや考えをもたせる。また、その思いや考えをグループ活動で話し合い共有するなどの活動を通し、さらに思いや考えをふくらませる。中学2・3年においては、曲の背景や文化・歴史をふまえ自己表現を広げるなどのことを言語化することで表現活動を深められるように取り入れた。

検証授業Ⅰ 単元名「広げようユメ・夢・ゆめ」(小学校第5学年・図画工作)

1 小中連携の視点

本授業では5・6年の発達段階、今までの生活経験や学習を生かし自分の思考を探り、深める部分に焦点を当てている。そこでマインドマップを活用し思考を深める活動を取り入れる。また、版表現をする中で段階を追った表現方法を理解し、中学校における見通しをもった技能につなげていきたいと考えている。

2 具体的な手だて・指導の工夫

(1) マインドマップを利用する。

マインドマップを作成し、自分の中にある思考を書き出させる。出てきた思考を基にねらいを定め、下描きを作成させる。版表現における、思いや意図を深める手だてとなると仮定した。

(2) 版表現の特徴を理解させる。

細かい描写ができない版表現における制約の中で、イメージの単純化を行い、中学校へつなげる構想能力を育て、単純化などの技法を理解させる。

(3) 表現の幅を増やす。

表現方法として、グラデーションや色の重ね方など配色方法の工夫を実践してみせ、色と形の組み合わせを考えさせる。

(4) 見通しをもった活動をさせる。

版表現の段階の拡大表示を作成する。今やっていること、これからの流れやつながりを説明し、見通しをもって作業に取り組ませる。

3 授業の考察

マインドマップを使うことによって、発想の整理ができ、児童に分かりやすかった。テンポよく内容の濃い授業内容が展開できてよかった。彩色の際などに味わいができるので、マインドマップの中身がもう少し深い内容の方がよかった。(授業風景・資料：51ページ)

検証授業Ⅱ

単元名 混声三部合唱「道」 (中学校第3学年・音楽)

1 小中連携の視点

今回の小中連携は、歌唱表現にポイントをしぼり研究を進めた。系統表では「思いや意図」として感受に関係する系統と、「表現する力」として表現力に関する系統に分けた。分科会では発達段階における歌唱表現について話し合い、共通認識し、系統表を作成した。本授業では中学3年生の発達段階での生活経験や学習を生かし、自分の思考を探り深める部分に焦点を当てている。また、音楽の基礎的な技術を伸ばし、クラス合唱・学年合唱を通して仲間を大切にす的心情や音楽を愛好する心情を育てていきたい。

2 具体的な手だて・指導の工夫

(1) CDの活用

混声三部合唱「道」のCDを聴かせイメージをふくらませる。

CDを活用して、パート音程を理解させる。

(2) ワークシートの活用

ワークシートを活用し、各自の考えを整理させ、好きな歌詞や旋律を考えさせる。

他パートの特徴を考えさせる。

(3) 生徒同士の表現の仕方を深めさせる場の設定

(4) それぞれの生徒の思いや考えを共有する場の設定

好きな歌詞を発表させる。

- ・好きな箇所を強調して歌う。
- ・曲全体の一つ一つの言葉の発音を意識して歌う。

他パートの特徴を発表させる。

- ・他パートの旋律や音の高さを観察して、より具体的に表現の工夫をして歌う。

作者の思いを考えさせ発表させる。

- ・自分の思いと重ね合わせながら曲想の工夫をし、イメージをもって表現豊かに歌う。
- ・クラス合唱・学年合唱をすることにより、思いやイメージを深め、音楽を楽しむ。



3 授業の考察

ワークシートがうまく活用されたよい授業だった。協議会では、言語活動の視点からは、ワークシートに記入させることで自分なりの振り返りができる、自分の考えを整理させることができるなどの長所と、言語化が苦手な生徒への支援の難しさなどが意見として出された。また思いや意図の表現の視点からは、作者の思い、自分の思い、教師の思いそれぞれの意図が複雑に絡み合うが、最初は混とんとした中から歌い合い、ワークシートを活用し整理されていく中で、自然と一つの合唱としてまとまっていく過程が芸術教科ならではのことで、また表現する力と鑑賞の能力は密接に関わっていることなどを確認した。

3校共通実践、図画工作・美術「自分の靴を描く」を通して

題材について

履きなれた靴は、ほころびや汚れなどができ、深い味わいが出ることが多い。また、毎日着用しているので、児童・生徒が日常の様子を振り返り、自分の思いを表現するのに適切な題材である。今回は、3校で共通する実践として指導内容に取り入れ、成長の段階に応じ、系統表に添って指導を行ってみた。

成長段階と指導の工夫

学年	5年作品	6年作品	中学2年作品
指導内容	<p>対象の靴をひたすら良く見てそっくりに描く事に重点を置いて活動している。靴の色・形は言うまでもなく、縫い目やしわや汚れ、ロゴまで忠実に「色で描き」再現するようにしている。陰の付き方までなかなか指導しきれないため、同じ形にちぎった新聞紙をずらして台紙に貼り、間に段ボールチップを入れて立体への意識付けをしている。</p>	<p>じっくりと対象を見つめさせ、靴を使っていた情景をイメージさせた。さらに背景を自由に発想させて思いを具現化させた。この作品では、思いや意図を表現するために、手前にある物に焦点を当て、背景をぼかす。手前にある物を強く描くなど遠近法を取り入れさせた。</p>	<p>愛着のある靴を描くことで自分自身を表現するという事に主眼を置いた。思いを表現するため、立体感・質感の表し方などの技法に取り組んでいる。 背景は自由に発想させたが、部活動の道具や教室の風景、習い事の様子など生徒にとって身近なものが多かった。</p>
作品例			
思いや意図	<p>意図や主題からイメージを深め、発想する。</p> <p>構成や美しさを考えて、色や形を考える。</p>		<p>深く感じ取ったこと、思いや感情など心の世界などを基に主題を表す。</p>
表現する力	<p>模様や遠近法などの表現方法を体験し、表し方を工夫する。</p>		

音楽 思いや意図を表現するために～日常の活動の様子

小学校 音楽を聴いた感じ、自分の曲に対する気持ちなど自分の思いや意図を言葉で表すことを目的とした活動

児童

新しい曲だ！

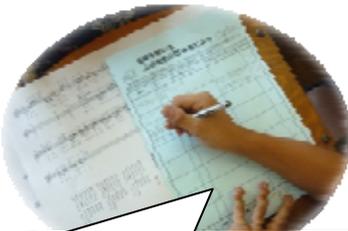
- ・CDで聴いて
- ・歌詞を読んで
- ・楽譜をじっくり見て

児童

- ・ワークシートに記入
- ・発言
- ・意見交換 (グループで)
- ・意見交換 (クラスで)

教師は・・・

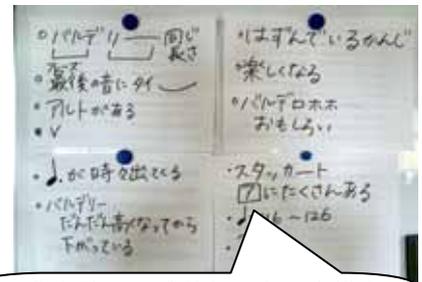
- ・児童の思いを取り入れながら歌唱活動の表現指導をしていく
- ・ワークシートに書いた言葉の中から、他の児童にも紹介したい言葉を“心の音色のき(気・木)”に掲示する(保一小)



“心の音色のき(気・木)”の言葉に採用されると、金色のシールが貼って戻ってくるんだ！



グループで意見交換



曲を聴いて感じたことや楽譜を見て気が付いたことを発言

中学校

思いや意図の表現に関する取組については前述(検証授業)の通りである。

その取組は、歌唱活動ではパート練習から学年合唱・全校合唱へと様々な規模で実践される。

さらに、アルトリコーダーなどの器楽合奏や鑑賞の活動でも思いや意図を表現する力の育成を意識して取り組んでいる。

また、表現するためには様々な音楽の要素の知識・理解も重要であり、ワークシートなどを活用している。



みんなの意見をまとめてみよう
どんな表現にしようか・・・



曲名	楽器	演奏時間	演奏者
1. 朝の光	アルトリコーダー	10分	音楽部
2. 夕陽の影	アルトリコーダー	10分	音楽部
3. 雨の音	アルトリコーダー	10分	音楽部
4. 風の音	アルトリコーダー	10分	音楽部
5. 水の流れ	アルトリコーダー	10分	音楽部
6. 花の香り	アルトリコーダー	10分	音楽部
7. 鳥のさえずり	アルトリコーダー	10分	音楽部
8. 虫の音	アルトリコーダー	10分	音楽部
9. 木の音	アルトリコーダー	10分	音楽部
10. 空の音	アルトリコーダー	10分	音楽部



成果と課題

成果

小中学校の授業への相互理解が増し、互いに協力して児童・生徒を育てていこうとする意識が高まった。また、小学校間の理解も強まった。

表現を大切にする教科として児童・生徒の成長段階を確認し合うことで、児童・生徒の自己を中心とした段階から社会とのかかわりへと目を向ける段階まで大きな指導の視点を意識することができた。

図画工作・美術、音楽の共通の育てたい力を「思いや意図をもって表現する力」と定めることにより、3校のこれから重視すべき方向性が確定でき、豊かな表現活動をはぐくむ児童・生徒の育成の道筋が定まった。

9年間を見通した系統表を作成することにより、学習内容の共通認識をすることができた。それにより、授業内容の段階ごとの位置付けやその後の指導の流れ、つながりに見通しをもつことが可能となった。また、授業計画を作成する上で既習事項を踏まえた指導や新しい活動のスタート点が確認できた。

課題

研究成果を生かすためには、指導内容系統一覧表を意識した指導を進めるとともに今後も情報交換を定期的にしていく必要がある。

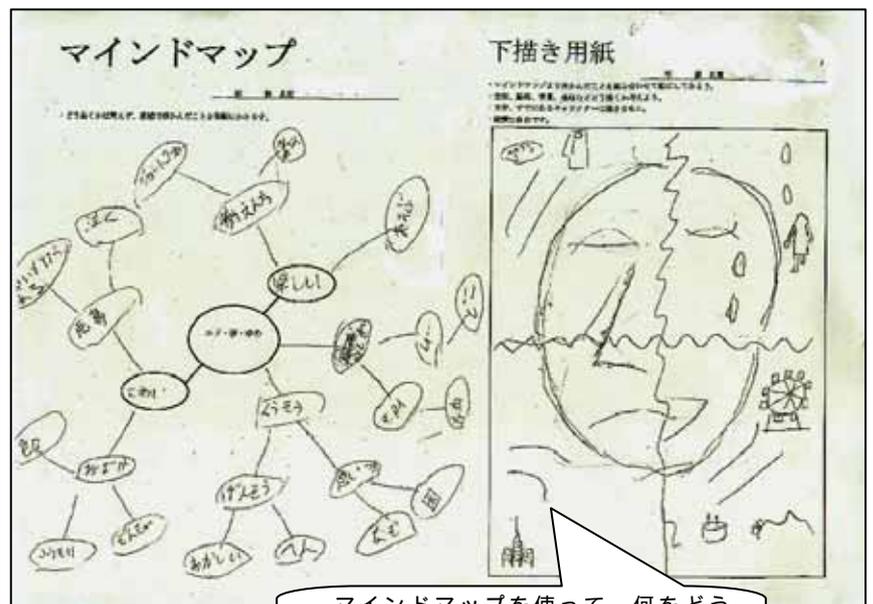
児童・生徒が自分の思いや意図を表現したことを見とるための方法や評価方法を共通理解して連携を強めることが必要である。

図画工作と美術では指導内容に＜造形あそび＞などの違いがあるため、互いの連携がますます重要になってくる。音楽は表現のメソッドがはっきりしているため、小中での指導の積み上げが大きく影響することが考えられ、連携が重要になってくる。

検証授業の様子 図画工作（小学校第5学年）



どう本描きしようかな・・・どこを省略しようかな・・・



マインドマップを使って、何をどう描こうかな・・・